

特集

がんとともに 生きる社会

働き盛り世代への支援を中心に



2016年1月から全国的に「がん登録」が開始される。がんによる死亡者の減少とがん患者やその家族の苦痛の軽減，療養生活の質の維持向上をめざし，また，がんになっても安心して暮らしていける社会の構築が目標として定められた。とくに働き盛りの治療と就労の支援を進めるため，地域や職場で求められる対応と，保健師が果たす役割について考える。

- がん対策推進基本計画の推進と「全国がん登録」の意義
- 産業医・看護職・人事労務関係者必読！
「『がん就労』復職支援ガイドブック」の活用を
- 職場でがん患者を支える産業看護職の役割と可能性
治療と就労の両立支援に向けた12のヒント
- がん検診受診率向上への取り組み
豊島区の「がん対策推進計画」
- 「患者力」と専門職との連携
情報提供と相談支援を担う「愛媛がんサポートおれんじの会」の取り組み
- 職場における1次予防の重要性
受動喫煙対策と禁煙外来